

和島村立島田小学校建築調査

An architectural study of Shimada elementary school in Washima village.

筑波匡介

Tadasuke Tukuba

Shimada elementary school in Washima village was built in 1927. People around the school are still using the school and keep it in good condition. The school is going to be closed soon. Therefore we made a basic architectural study of the building to think how we can use it in a future.

Keywords: 木造校舎、閉校、地域文化財、保存

Wooden school building, closing a school, local cultural asset, preservation.

「はじめに」

和島村に平成16(2004)年で、創立100周年を迎えた小学校がある。谷間の開けた田圃の通りから見える校舎は高台に建ち、集落を見守るようにたたずんでいる。この建物は子供たちの声にあふれ、活気に満ちた木造の校舎である。本稿是和島村にある二つの小学校を統合する事により役目を終えようとしている島田小学校の跡地利用調査として、現校舎の建築調査を行った調査報告である。この校舎は昭和2(1927)年、運動場(体育館)とともに建設され、70年を超えて現役である。数々の増改築を繰り返しながら、地域の学び舎として大切に使われている。

「島田小学校の歴史と現在」

良寛の里として有名な和島村の歴史は古く、平成2(1990)年に八幡林遺跡から出土した沼垂城の木簡は、奈良時代前期のものだと判明し、当時の和島村は国の要衝の地として栄えたと考えられている。

島田小学校は、現和島村が成立する際に小島谷校と村田校の統合により現在地に置かれた。また今ある鉄筋の新校舎¹⁾が建っている場所に創立当初の校舎が建設された。島田小学校が建設されるにあたり小島谷小学校と、村田小学校が使われそれぞれの校舎の古材が使われた。これらは校舎にどの部材を使い、どのように建てられたかが図面に記録されて残されており興味深い。お互いの集落から小学校が無くなってしまふことをきらった住人たちから校舎の取り壊しに反対運動が起こり、島田小学校が建設されるまでには、その収拾に労力を費やしたとされる。²⁾

「当初の姿」

建築調査と同時に、地域住民や教職員から行った聞き取り調査の際に発見・提供された写真により、建築当初の姿が明らかとなった。南校舎東側妻面は、現在半切妻造で、こちら側4間は、屋根瓦や、外壁意匠の違いなどから調査前から増築であると予想していた。建築当初この屋根は日本的といえる入母屋造であ

り、屋根には片側各3箇所三角屋根が造られていた。これらは、本来明り取りが気抜き窓として造られるはずであるが、写真から読み取る限りその意匠からして、飾りとして作られたものとも考えられる。現在までの屋根修理に際し雪仕舞いや、雨仕舞いの関係から撤去されたものと考えられる。屋根裏にはこの改造のあとがはっきりと残る。

「島田小学校の建物」

現在の校舎は東側1教室分(4間)が増築されており、外壁の違いや、小屋組みの違いなどからも確認できる。この小屋組みには棟札らしきものが残されるが、『祝上棟』の墨書とともにチョークで『1949』と記される。これは昭和24年に当たり、この年に増築されたとする給食室と同時期に工事が行われた。運動場に付属する便所は、昭和39(1964)年に建設されたとある。

校舎二階の民具室³⁾・コネット室⁴⁾・その廊下は同じ天井の設えであり、塗装されるペンキも同じに見える。これは、昭和29(1954)年学校図書室が開設されたときのもので、これら工事の写真とともに残される文書から確認できる。この図書室は新校舎に移るとともに改造され、現在の部屋割りとなった。

天井などの内装は改変され建設当時とは様相を違えている。しかしながら、合板を貼り付けているだけの簡単な改造であり、当初材の多くは残されている。外に面する窓は、アルミサッシとなっはいるが、廊下と教室を分ける屋内の窓は当初のものが残されている。教室や廊下などにいくつかの電化製品が増えた以外は昔の雰囲気を与えている。

二階に上がる階段には建物の規模からして不釣り合いなほどの大きな親柱があり、ひときわ目をひく。わが国に西洋の文明が入ってきた明治以来、いわゆる洋風デザインとして力を入れる部分である。踏み板は磨り減っており行き来した児童の歴史を物語る。児童たちは、夏には裸足でこの階段を駆け上がり、滑り台をすべるように階段を滑り降りる。彼らは校舎を遊具のように利用し、どんな事でも楽しんでいる。

体育館は木造で、屋根構造は鉄骨トラスからなる。連続しているクイーンポストトラスが美しくもあり、構造は力強さを見せてくれる。校舎同様に外壁は鉄板へ、窓枠はアルミサッシへと交換されて、床板も張替えが行われている。正面に天蓋つきのステージがあり、ステージに向かって右側壁面に奉安庫と伝わる扉がある。⁵⁾

演台の床板には天蓋と同じサイズで框跡があり、増床されたことが想像できる。また、階段も一段ずつ付け足され、面積だけでなく、高さも上げられている。演台自体が収納を兼ねており、隅切された壁面を取り外して内部に入ることができる。そこには、当初建設された演台がほぼ当初の姿のまま残され、20cmほどかさ上げされている。このかさ上げ分は演台に上がるための階段に履かされた下駄分に相当し、階段も当初からのものに一段加えて使っている事がわかった。

「校舎に残る思い出」

校舎の屋根を支えてきた構造体であるトラスには、子供たちの屋根裏探検記念の足跡が落書きとして残されている。屋根裏には、梯子を架けなくては入れないはずである。しかしこの小屋材のほとんどに施されたチョークの落書きには、女子児童の名前も書かれている。慣れた者でも緊張する屋根裏に、女子生徒が登ってきているとは、なかなか勇ましい。この屋根裏には、わらじや新聞紙、習字紙などもあり、まるでタイムカプセルのようだ。

またこれとは別に運動場の演台下には改造時にかかれたいくつかの墨で書かれた記録がある。これらは、昭和26(1951)年

の日付と、当時の村長、収入役、PTA会長、材木屋、設計者、職工が書かれている。⁶⁾ これらは普段使われていても、今まで気づかれる事なく忘れられていた。

「これからの校舎」

島田小学校は集落を見渡す小高い丘の上に立ち、集落の中心としてランドマークの役割を果たしてきた。木造校舎及び運動場は、外壁は増築部を除きそのほとんどが鉄製に変更されているが、当初の下見板張りを意識したものとなっており、建物自体の雰囲気も伝えている。また改造箇所を除いては、当初の部材をよく残し、技術や工法の跡をたどる事ができ、昭和初期の学校建築としての資料的価値も見出すことができる。何よりも、地域住人参加の元で学校教育が進められており今後の活用についての地盤はできている。

この校舎が地域住人主導の元で、この先までずっと使われ続ける事を望む。

「おわりに」

「日本近代建築総覧」⁷⁾によれば、新潟県下には80を超える木造校舎が存在したが、現在までにそのほとんどが役目を終え、校舎として使われなくなり活用法が見つからず放置されたままのものや、取り壊されたものも多くある。木造校舎が注目され始めたのも近年のことであり、県内においても十分な実態把握調査が行われているわけではなく、基礎的資料が充分であるとは言いがたい。このような状況の中で、建物の活用を模索している今後の島田小学校について、注目をしていきたい。

参考文献

島田小学校70周年記念誌

今回の調査は造形大学一期生元井文の協力の下、文化財建造物保存研究サークルの有志により実測調査を行い、大嶋奈美（環境デザイン学科2年生）が作図した。

1) 昭和44（1969）年に建設

2) 70周年記念誌による。発砲事件までおきた。

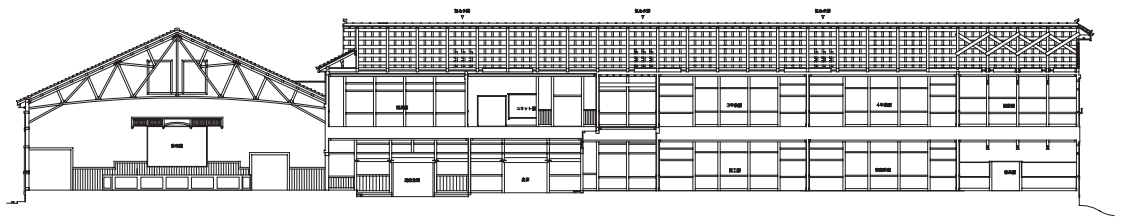
3) 地域の民具を展示している。

4) おもにコンピューター学習のための教室

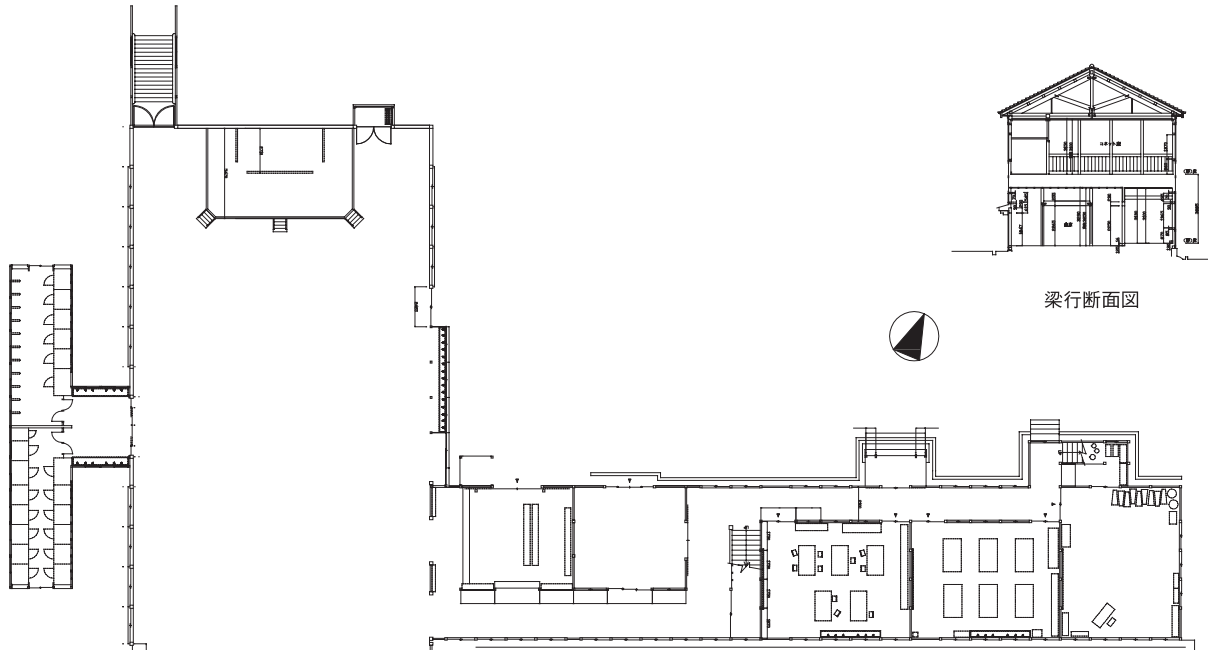
5) 島田小学校には、奉安殿は校舎外に建てられた事がわかっているが、奉安殿とは別の奉安庫である可能性がある。

6) ここに設計・職工として名前が残される平沢和氏は、創立70周年記念誌にこの時の思い出を記していた。

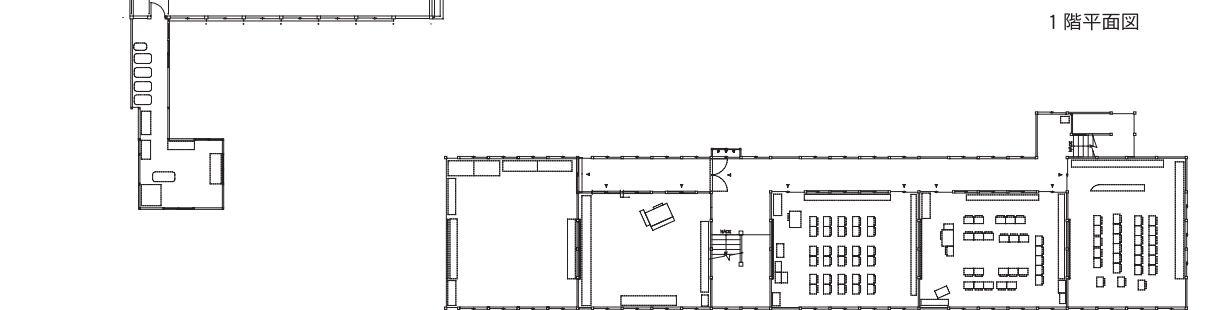
7) 日本建築学会1980/03/30 当時全国に点在する近代建築を網羅的にリストアップしている。しかしながら長岡市内の木造校舎についての記載はなく、今回取りあげた島田小学校も載せられてはいない。



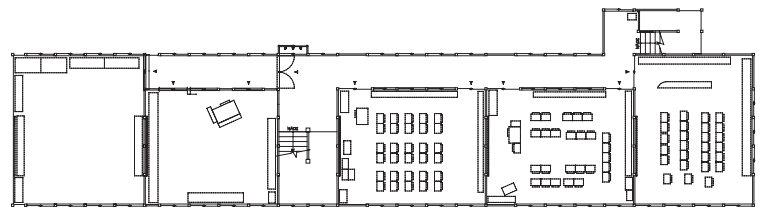
桁行断面図



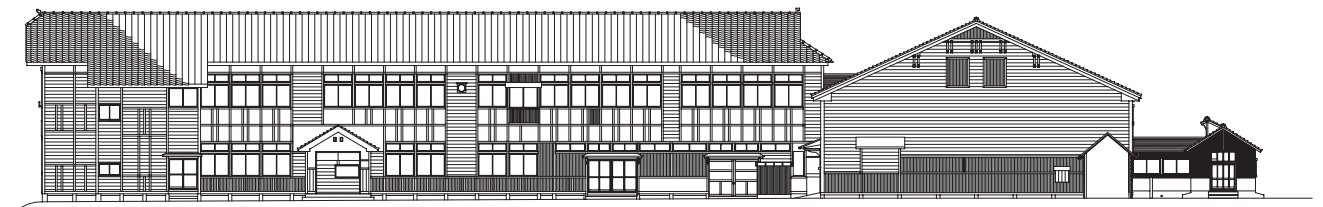
梁行断面図



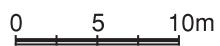
1階平面図



2階平面図



北側立面図





校舎全体



増築した校舎(音楽室、図書室)



図書室



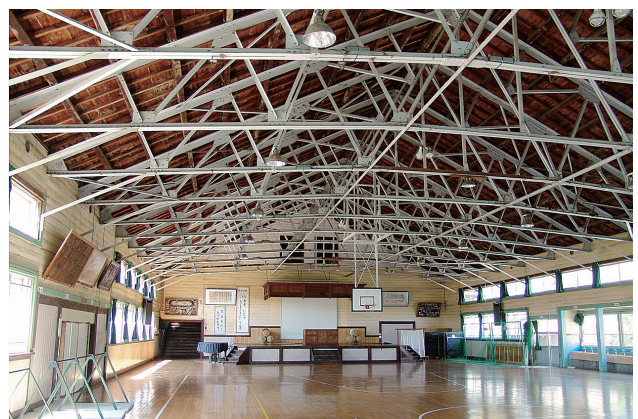
特徴的な形の親柱がある階段



図工室前廊下から東側をみる



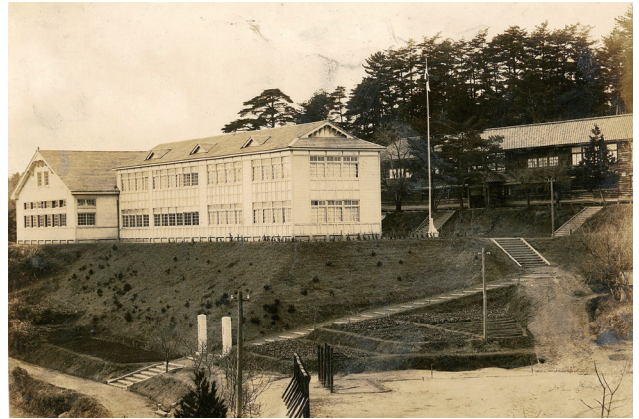
屋根裏の落書き



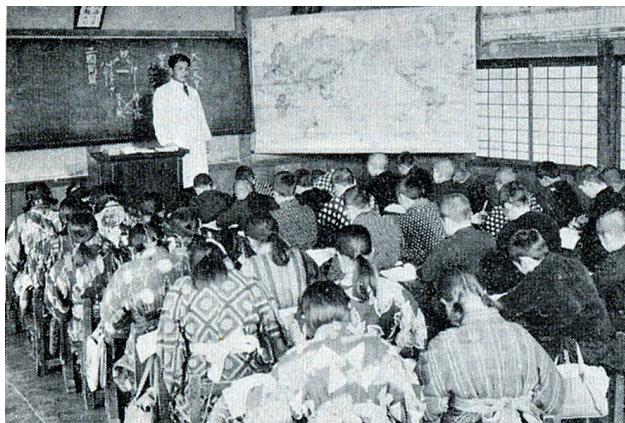
運動場



奉安殿の前で作業をする生徒たち



新築当時の校舎



授業を受ける生徒たち



図書室竣工式



図書室の改装工事



羽織袴の父兄が参加



中庭からの校舎全景